

## 2 小学校プール飛び込み事故【事故②】

基礎情報			
事故発生時期	平成 28 年7月	被害児童及び事故種別・ 被害程度	小学6年生女子1名 プール飛び込み事故、後 遺症発生
訴訟の有無	無し	報告書作成までの期間	11 か月
事故の概要			
活動種別	課外活動		
事故発生の概要	平成 28 年7月、地区の水泳大会へ向けた課外の練習中、飛び込みに抵抗のある児童のためにフラフープを用いた練習を行うこととなった。その児童が飛び込みに躊躇し、その様子を気付いた飛び込みの上手な被害児童がやってみたくて申し出て、飛び込み台近くの水面に浮かべられたフラフープをめがけて垂直に近い角度で飛び込み、プールの底に右後頭部を強打した。6日間の入院治療の後、約2か月後に手足のしびれなどの後遺症が現れるなど、その後も生活に支障を来している。		
事故の要因			
S (Software)	学校事故を防止するための研修や安全教育、マニュアルや規則、指導計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>●指導計画、指導方法の事前確認は無く、指導にあたる教諭に一任していた。飛び込み指導研修を受けた教員もいなかった。</li> <li>●水泳指導において飛び込みによる事故の危険性が強く指摘されていることに鑑み、授業では指導されていない飛び込みスタートを実施する場合は、安全面に十分配慮した専門的な指導が可能な教諭によって限定的に行われるべきであった。</li> </ul>	
L <sub>1</sub> (Liveware <sub>1</sub> )	当該事故で被害児童生徒を直接指導していた教員やスタッフ	<ul style="list-style-type: none"> <li>●指導教諭は以前の勤務校で水面に浮かべたフラフープを目標とした飛び込み指導を経験しており、有効な指導であると認識していたが、当該校での活用の実績は無かった。</li> <li>●当初、飛び込みに抵抗のある児童のために低い姿勢でまっすぐ入水させようと意図したものであったが、位置を調整しなかった。</li> <li>●別の児童が危険を察知してフラフープの位置変更を申し出たが教諭は無視した。</li> <li>●フラフープが飛び込む場所に近すぎたため、入水角度を大きくしており、配置位置について配慮が無かった。</li> <li>●教諭は、普段から飛び込みが苦手な児童を揶揄することばを繰り返しており、被害児童は失敗したら同じようなことを言われるのではないかと危惧していた。</li> </ul>	
m (management)	事故に対する学校側の指導体制、指導方法、安全管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>●この小学校においては、これまでも飛び込みによる事故が起きているにもかかわらず、事故の教訓化が図られず学校での安全意識の共有化を怠っていた。</li> </ul>	

		<p>●学校の事故調査は児童からの聴き取りや実地検証を行わず、教諭からの聴き取りのみで作成されていた。また、頭部を強打した事故であり、かつ救急搬送をしているという時点で基本調査を開始すべきであったが、そうした基本認識に至らなかった。学校運営責任者、及びそれを管理すべき町教育委員会による二重の瑕疵によって事故対応に不適切な処置が助長された。</p>
<b>有識者による事故の検証</b>		
調査委員会の構成員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町立児童館館長</li> <li>・県教育委員会</li> <li>・他小学校教員</li> <li>・医師</li> <li>・大学教授2名(教育臨床心理学、スポーツ生理学)</li> <li>・PTA副会長</li> <li>・救急救命士</li> </ul> <p>[8名]</p>	
<b>提言された対策</b>		
S (Software)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●本事故は指導者である教諭が設定した場で、児童が飛び込みを行うことで起きた「指導事故」である。指導にあたる前に、その指導内容について理解を深める教材研究が必要であり、指導内容を吟味し、教諭が実際にやってみるなどしてより効果的な指導方法、使用教具等を検討することが必要である。</li> <li>●教職員が事故等の発生を未然に防ぎ、万が一事故が発生しても児童生徒等の安全を確保し、被害を最小限にとどめるためには、教職員一人一人に、状況に応じた的確な判断力や機敏な行動力が求められる。そのためには、教職員の危機管理に関する研修を実施するなど、対応能力を高めることが必要である。</li> <li>●「首を痛めている」判断が的確にできるように、消防署等の外部機関と学校が連携し、教員への応急手当の講習を充実していく必要がある。</li> </ul>	
H(Hardware)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●個の実態を把握するとともに、個に応じた教材教具の選択、場の設定が必要である。</li> </ul>	
L <sub>1</sub> (Liveware <sub>1</sub> )	<ul style="list-style-type: none"> <li>●教職員の危機管理に関する研修を充実させるなど、教職員一人一人の対応能力を高めることが必要である。</li> <li>●児童生徒の指導にあたっては一人一人個人差があり、その児童生徒に応じた学習の場の設定が不可欠である。また、練習前には、児童生徒へ練習の意図及び練習方法について詳しく説明を行うことも大切である。事故防止につながるだけでなく、効果的な練習にしていくためにも必要なことである。</li> </ul>	
m (management)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●事故発生後の対応は、校長のリーダーシップのもと、チームとして対応することが必要である。そのためには、事故に関する情報、その後の対応について共通理解、共通認識を持つことが必須である。</li> </ul>	